

スーパー中山間地域創生事業  
熊本県むらづくり課

【熊本県】スーパー中山間地域創生事業の3地域の紹介

明日のむらづくり、  
始めています！

動かなきゃ  
始まらない



発行者：熊本県

所属：むらづくり課

発行年度：令和4年度(2022年度)

〒862-8570 熊本県中央区水前寺6丁目18番1号

tel：096-333-2415 fax：096-385-5025



くまもとふるさと応援ネット  
こちらをご覧ください

山鹿市 菊鹿地域  
西日本一の栗  
世界が認めたワイン

高森町 野尻地域  
阿蘇ドライフラワー

南阿蘇村地域  
南阿蘇の  
風景をつくるごはん



# さあ、次の未来をつくろう。 地域に新しい活力を。

## 立ち上がった地域、人々がいます。

少子高齢化の波は日本のあらゆるところに押し寄せています。

山あいや里山のような中山間地域では、農業やコミュニティの継承が難しくなるなどの多くの問題に直面しています。

しかし、何もしなければ始まりません。

熊本県では、若者の受入れや新たな経済循環等によって、

活力あふれる持続可能な地域を「スーパー中山間地域」としてイメージし、

関係人口や移住・定住の拡大を図っています。

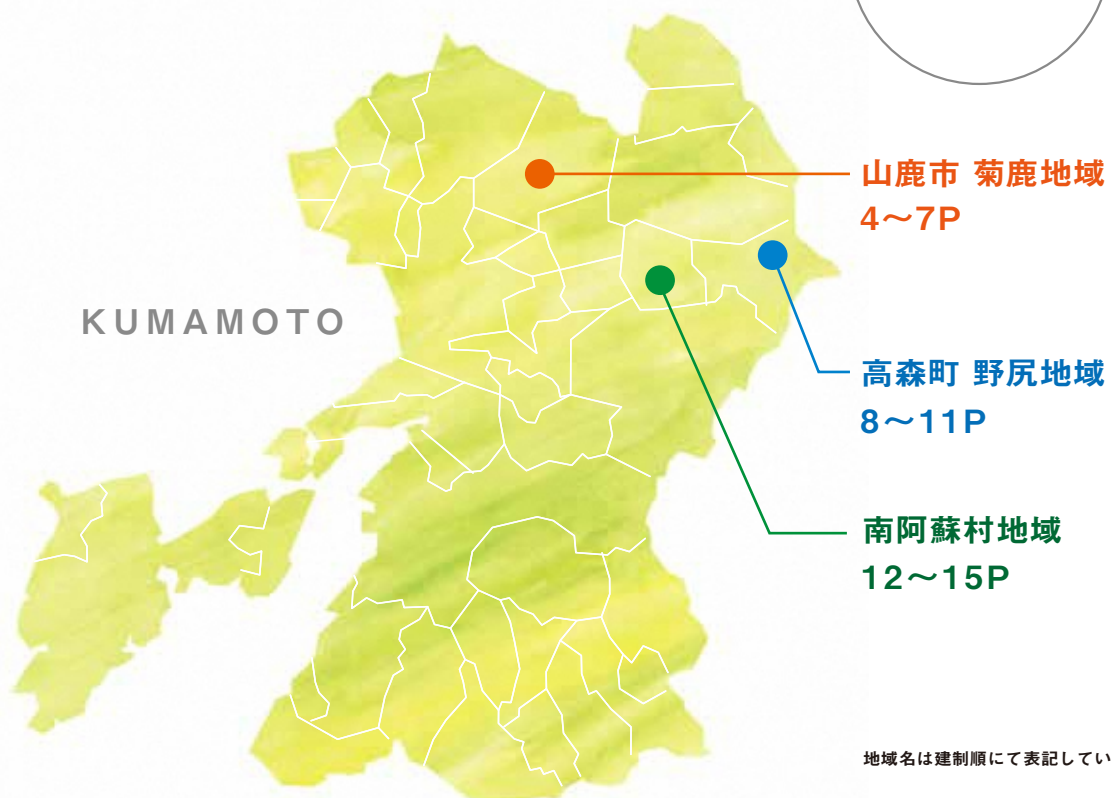
令和3年度、県内の中山間地域を代表するような「広告塔」となりえる地域として、

公募により3地域を選定しました。この冊子で紹介する3地域は、

地域住民の方が地域の将来を自ら考え、

次の未来のために今できることに取り組みられています。

## INDEX



## 山鹿市 菊鹿地域

豊かな森と田畑、独自の歴史文化を持つ地域。

山鹿市では、特産の「菊鹿ワイン」と「山鹿和栗」を活用して「菊鹿ワイナリー」を主に交流人口を増やす取組みを始めています。



## 高森町 野尻地域

阿蘇五岳 根子岳の麓(ふもと)、標高750mの花き栽培がさかんな地域。

花農家を中心とした地域活性化団体「NOKaTs(ののかつ)」では「阿蘇ドライフラワー」のブランド化に向けて活動しています。



## 南阿蘇村地域

阿蘇山と南外輪山に囲まれた田園が広がる地域。豊かな水に恵まれ、有機農業がさかに行われています。南阿蘇村では「南阿蘇の風景をつくるごはん」をテーマに、地元の農産物をみんなが食べる・買って応援する仕組みをつくり、農業と育まれる田園風景を守る活動を実践しています。



# 山鹿市 菊鹿地域



## 地域の未来のために

山鹿市 農業振興課 主任 井上恵介さん

一番の課題は高齢化と農業の後継者不足です。農業や地域のコミュニティ活動を継続していくことが困難になってきています。こうした中で、中山間地域の農業の柱として、菊鹿地域では「山鹿和栗」と「ワイン用ブドウ」の生産に力を入れています。和栗については山鹿市が西日本一の生産量を誇り、その主要な産地が菊鹿地域にあります。ワイン用ブドウについては、地域のブドウでつくられた「菊鹿ワイン」が国内外のコンクールでさまざまな賞を受賞しており、

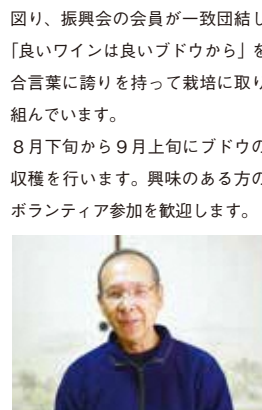
ブドウの品質にも評価が集まっています。この二つを柱に、地域を盛り上げ、これからの中山間地域の農業のモデルになればと考えています。また、山鹿和栗や菊鹿ワインをつないで菊鹿ワイナリーに人が集まる取組みも始めています。



## 世界最高ワインのブドウを育てる

菊鹿町葡萄生産振興会 会長 多久正光さん

28名の菊鹿町葡萄生産振興会員で生産しているワイン用ブドウを原料とした「菊鹿」シリーズのワインが、国内外のコンクールで受賞を重ね人気を博している中、平成30年11月菊鹿ワイナリーがオープンし、多くの来場者で賑わい、ますます注目を集めています。栽培を始めてから24年が経過し、これまでに例がない本格的なワイン用ブドウの栽培は、常に試行錯誤の連続でしたが、栽培講習会で専門的な指導を受け技術の向上を



図り、振興会の会員が一致団結し「良いワインは良いブドウから」を合言葉に誇りを持って栽培に取り組んでいます。8月下旬から9月上旬にブドウの収穫を行います。興味のある方のボランティア参加を歓迎します。



高品質なワインのために夜間に収穫する「ナイトハーベスト」



国内外で高評価の「菊鹿ワイン」

# 西日本一の栗の生産量！ 世界で評価されるワイン！

## 農家の方と二人三脚でワインを

熊本ワインファーム(株) 製造部長 西村篤さん

2018年に菊鹿ワイナリーができて、収穫したばかりの新鮮なブドウですぐに醸造に入れるようになりました。ワインづくりにおいて、ブドウの鮮度は非常に重要で、菊鹿地域では農家の方の協力で、早朝や夜間に、糖度がピークのフレッシュなブドウを収穫しています。ワインづくりにおいて、素材のブドウの品質は極めて重要な要素。切磋琢磨しながら力を合わせ、作り上げたワインが国内外のコンクールで多くの賞を受賞するに至っています。菊鹿町は、農業が中心の地域。これからも世界に発信できるワインづくりができるように、農家の方と二人三脚でコミュニケーションを取りながら10年、20年といわず100年続けていきたいと思っています。



菊鹿ワイナリーで販売されている菊鹿ワイン。秋にはこのワイナリーで収穫祭も行われる。



ブドウの収穫をするボランティアの方々



収穫を待つ朝日に輝くワイン用のブドウ



# 山鹿市 菊鹿地域

## 「山鹿和栗」で地域経済を活性化したい

山鹿市物産館連絡協議会事務局  
株式会社あんず 代表取締役 植田隆司さん

10年ほど前、地元では「山鹿和栗は西日本一の生産量」ということがほとんど知られていませんでした。そこで、魅力を引き出すために様々な和洋スイーツを開発し、販売することにしました。これまで全くやってこなかったことで心配でしたが、反響が良く、県外からのお客様も増えていきました。こうした流れで、秋季限定ですが山鹿和栗を使った洋菓子店や飲食店が地域に30店舗以上へと拡大しています。私は地域経済というも

のが大切で、山鹿和栗を活かした商売を行うことでお客様が増え、必然的に担い手が必要になり、地域も活性化していくと考えています。山鹿和栗は、地域にとっての最良な経営資源です。多くの人に、この輪に加わってほしいと思っています。



## 山鹿には独特の時間があります

菊鹿さきもり隊  
(一社)山鹿移住定住支援センター kutamin 代表理事 田河正行さん

熊本地震が起きた時は熊本市内に住んでいました。その後、災害支援を経て、移住先を探し、地域おこし協力隊の募集があった山鹿市への移住を決めました。現在は山鹿移住定住支援センターを開設し、多くの方の相談に対応しています。新規就農する方は、ブドウや栗など、複数の農作物の栽培をされるのがよいのではないかと思います。私も自身の経験も踏まえ、これから移住や就農を考えている方の力になればと考えています。

山鹿は歴史文化が昔から育ってきた地。見方を変えると、それは、地域の方がずっと守り続けてこられたことだと思います。

こうした歴史から、独特な時間、ゆっくりとした時が山鹿には流れています。ぜひ山鹿にお越しください。



## クリエイティブサロンをつくる

アイラリッジ管理運営会社 (指定管理者)  
(株)ローカルデベロップメントラボ プロデューサー 絹田秀治さん

菊鹿ワイナリーの中にある「アイラリッジ」という施設を2021年度から運営しています。地域を盛り上げ、活性化するために、現在、さまざまなプロジェクトを実行しています。例えば農家さんが作られた農産物を利用してワインに合う商品を開発したり、試食会を開いて多くの方に地域の食材や魅力を発信しています。またクリエイターやデザイナーといった方と、地元の農家さんが手を取り合って新しい価値を生み出していくことにも力を入れ

ます。ワインや農産物をきっかけに、山鹿市内の地域内交流を広げ、温泉や文化施設へ回遊していくことも視野に入れていきます。こうした活動を「クリエイティブサロン」と呼び、地域に新しい風を起こせればと思っています。



栗の収穫は毎年8月中頃から10月に行われる

## 菊鹿地域「ワイン」と 「山鹿和栗」を軸とした地域づくり



### 3つのプロジェクトを推進していきます

# 菊鹿ワイン  
# 山鹿和栗  
# AIRA RIDGE  
を SNS 検索してください



山鹿市 HP

## 栗は栽培しやすい魅力的な農業

鹿本農協クリ部会菊鹿支部  
支部長 野小生春生さん

「山鹿和栗」の栽培は、高齢者であっても機械を使わずに栽培できるので、取り組みやすいです。耕作ができなくなった田畑での栽培にも良いかもしれません。一般的な果実栽培に比べて、傷や鳥獣害にも強く、扱いも楽な作物と言えます。菊鹿地域には農協に卸している農家が300人以上います。私のところでは父の代から栗の栽培を行い、約800本の木があります。台風のリスクを減らすことから、収穫時期を分散することで8月中盤から10月まで幅広く収穫できるような品種も育てています。おいしい栗をこれからも頑張って作っていくので、多くの人に「山鹿和栗」を知って、食べていただければと思います。



2022年秋 野小生さんの収穫風景



山鹿和栗を利用したスイーツも大人気



秋、熟して収穫を待つ栗



西日本一の生産量を誇る山鹿和栗



# 高森町 野尻地域



## のおかつ NOKaTs

### “花”から始まる地域づくり

#### 子どもたちの未来のために

NOKaTsメンバー 農家 瀬井愛さん

出身は静岡ですが、結婚して主人の実家である高森町に来ました。こちらに来て8年になります。野尻地区でミニトマトと花を栽培しています。

NOKaTsの活動内容を聞いて、私もぜひ参加したい、何か力になりたいと思いメンバーに加わりました。

ドライフラワーを扱うという仕事はとてもおもしろく、栽培している花だけでなく、野に咲く草花も製品化しています。野や山を見て気づくことも増え、日々、新たな発見をしています。夢はブライダル分野への進出です。

私は今、小学生3人を子育て中で、地域の課題も見えています。未来のために、安心しておかえりと言える地域、そして子ども達が誇れるふるさとを守りたいと思います。



咲き誇る未来、  
サステナブルに  
豊かな自然、人、光で繋げる地域づくり



のおかつ

#### NOKaTsの由来

N = 野尻 O = 尾下

K = 河原 T = 津留

a = アグリカルチャー  
(農業)

s = サステナビリティ  
(持続可能な)

NOKaTs  
Instagram



#### 地域の未来のために

高森町役場 農林政策課 課長補佐 白石孝二さん

野尻地域にも限界集落があり、空き家が生じています。この問題を解決するために地域では、花農家を中心にNOKaTsという団体をつくり、規格外の花からドライフラワーをつくる新たな事業をすすめています。SDGsが叫ばれる中で地元特産花きのロス減らして、活用することに次世代の地域づくりの可能性を感じています。

NOKaTsの事業展開によって、新しい仕事生まれれば、地域に新たな雇用が生まれ、収益をもたらし、

さらに人を呼び込むことにつながる。地域のなりわいや賑わいの回復につながると考えています。NOKaTsは地域を良くしていきたいという熱意あるメンバーによって、地域に新しい風を起こしています。



#### ドライフラワーで未来を開花

NOKaTs 会長 農家 白石豊和さん

今後、地域が10年、20年と年を重ねるに従い、人口が減っていくことを感じて、このままでは地域が消滅してしまうのではないかと考えました。そこで、地域の同世代で、まずは行動を起こそうと思いい、NOKaTsというグループを立ち上げました。野尻地域には14軒の花き農家があるので、そこで生じた規格外の花をドライフラワーに加工して販売する事業を開始しました。地域では年間50万本の花を出荷しているので、その中で生

じる出荷できない花のロスを活かせないかと考えました。現在、野尻地域のドライフラワーブランド「阿蘇ドライフラワー」を立ち上げ、新たな仕事づくりに力を入れ、みんなが元気に暮らせる地域を目指しています。



NOKaTs会議 いつも熱い意見が交わされます



活動は、随時 SNSで情報発信



地域内のドライ庫で収穫してすぐの新鮮な花を乾燥させています



# 高森町 野尻地域



NOKaTs メンバーによるドライフラワーアレンジメント製品づくり

## ワークショップでも大好評です

地域おこし協力隊 田中千恵さん

東京から、高森町の地域おこし協力隊として移住しました。今は、ドライフラワーの製品化を担当しています。長さが足りない花や茎が曲がって出荷できない花を生かし、ドライフラワーを使った製品づくりと開発を行っています。

各地のマルシェに参加して、販売やワークショップも実施しています。お客様から「すごくきれい」と毎回、好評をいただいています。野尻地域では、花農家さんが直接関わることで新鮮な花を乾燥させること

ができ、自然の色を残した鮮やかなドライフラワーへと仕上げるすることができます。きれいな花は、製品づくりをしても元気をくれます。製品化から、SNSによる発信まで一貫して担当することができ、やりがいを感じています。



## 色の鮮やかさに驚かれます

TAKArAMORI (たからもり) フローリスト 松村由美さん

高森町湧水トンネル公園のそばにある TAKArAMORI という店舗でドライフラワーの販売を行っています。ここ数年、ドライフラワーが人気になってきて、多くの方が買い求められます。従来のドライフラワーは枯れて、茶色っぽいイメージでしたが、NOKaTs さんのドライフラワーは色鮮やかでお客様にも驚かれます。一生懸命に育てられたお花が一輪でも無駄にならないようにと思って始められた事業だと思っています。

こうした気持ちをお客様にも伝えることができると考えています。花農家さんが育てたお花を、廃棄することなくドライフラワーにして、多くの方に買っていただく。それが町の中でできているところが素晴らしいと感じています。



ワークショップは多くの方に好評



キャンバスにドライフラワーで描く

## NOKaTs が取り組む 地域活動の柱

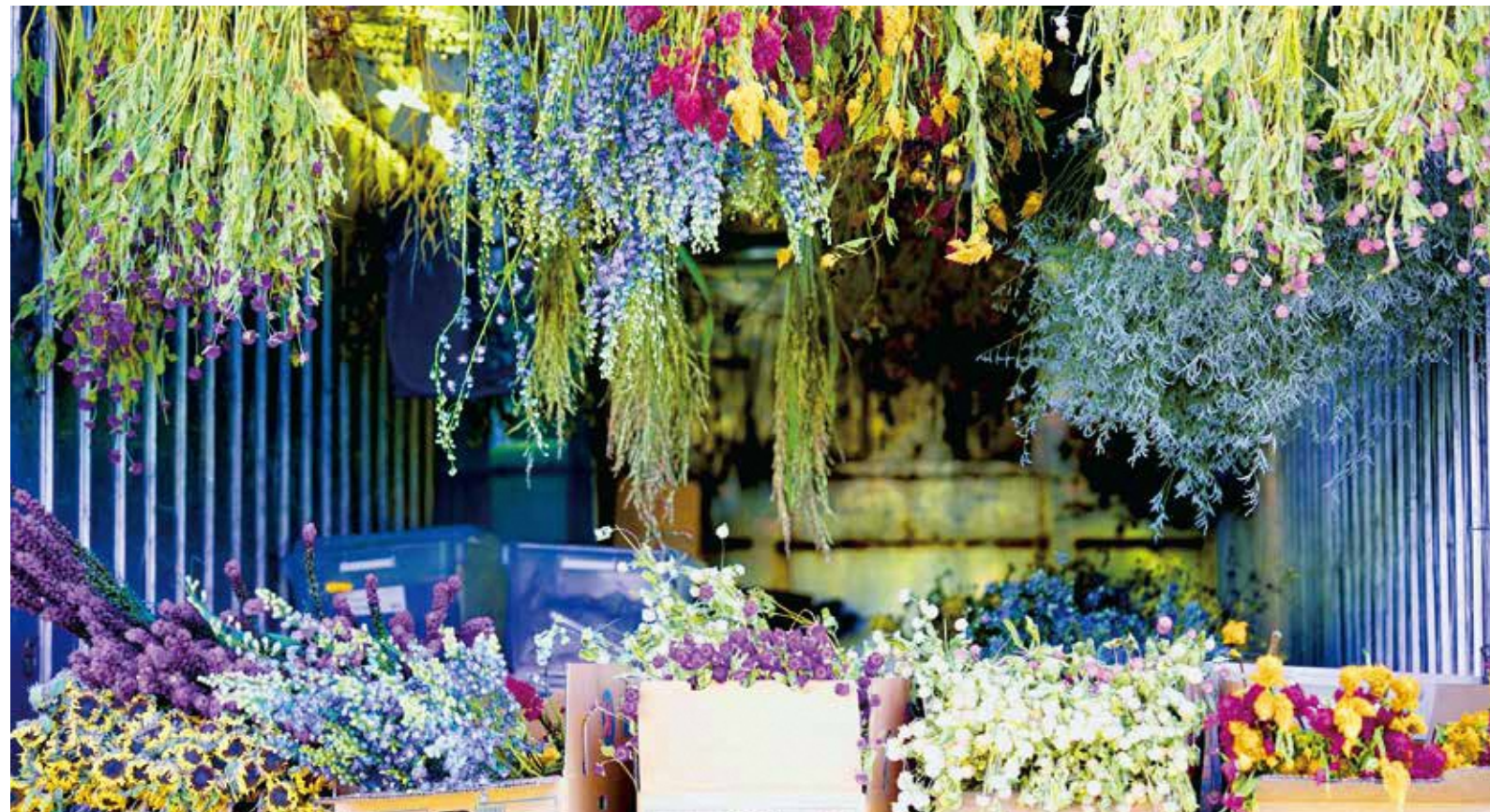
花をはじめとする地域資源を活かした新しい仕事づくり。  
多様な人材が輝ける移住・定住体制づくり。  
ICT 環境を活かした情報発信。  
3つの柱で活動を推進しています。



カラフルな色の特徴のボトルフラワー 全て自然の色



ドライフラワーを詰め合わせた BOX フラワーも人気



花も茎の色も美しい 色鮮やかな阿蘇ドライフラワー



# 南阿蘇村 地域



## 地域の未来のために

南阿蘇村 農政課 課長補佐 山戸陸也さん

訪れた方から、南阿蘇は「風景や水がきれいですよ」と言っているのですが、農業者の高齢化が進み、このままでは風景も守れないと危機感を感じています。そこで、南阿蘇を訪れる方に、農作物を買っていただくことで、農業が元気になれば、その結果として風景も維持できると考えています。このことを一般の方にわかりやすく伝えるために「南阿蘇の風景をつくるごはん」という言葉で表現し、活動しています。地域の農産物を

飲食店や宿泊施設、ご自宅・通販等で食べていただくことで、農業者の収益を上げ、農業を継続できる仕組みを作り上げることを目指しています。村が設立した(一社)南阿蘇村農業みらい公社を中心に、さまざまな施策を実施しています。



## 家族で移住 南阿蘇村で農家に

農家 鈴木高男さん、幸子さん（就農5年目）

東京から南阿蘇村に移住し、就農しました。農業の経験は全くありませんでしたが、最初は家のまわりの10aもない小さな田んぼから始めて、少しずつ拡げていきました。現在は2.5haの田んぼで米を、50aの畑でさつまいもを栽培しています。

仕事中は阿蘇山と南外輪山に囲まれた土地に、守られている安心感があります。南阿蘇はどこでもそうですが、地域の方が温かいので、優しく受け入れていただきました。ここで就農すると農業に対する気持ち、



食べ物をつくる気持ち、環境を考えて作物をつくるという気持ちなど、人生観や価値観を変えていくのではと思っています。今後は南阿蘇に興味を持った方に、何らかの形でここでの暮らしを体験できる活動もできればと考えています。



家族で作業をする鈴木さん一家



お米は南阿蘇村の主要農産物のひとつ

# みんなで育て みんなで食べて 風景を守る！

## 「南阿蘇の風景をつくるごはん」

### 年間50品目の野菜を栽培中

農家 村田寿政さん（就農6年目）

東日本大震災をきっかけに、南阿蘇村に移住し、就農しました。それまでは東京でパソコンに向かう仕事をしていましたが、電気が停まる中で不安を感じ、生きることに直結した農業をすることに決めました。南阿蘇村を選んだ理由は、以前訪れた時に、その雄大な景観に一目惚れして、ここで農業をやりたいと強く思ったからです。

今は少量多品目栽培で年間50品目程の野菜を栽培しています。最初は、両親や兄弟、友人など身近な人にいろいろな野菜を食べてほしくて始めました。箱を開けた時に、驚いてもらえるような旬の野菜をお届けしています。四季折々の豊かな風景も、僕がここで農業をやっていくうえで、根本的に大切にしたいことです。



私たちは  
南阿蘇ファンと一緒に

- 「水」湧水の郷を育み
- 「土」有機農業を育み
- 「里」里山の景観を守る



南阿蘇の  
風景をつくる  
ごはん



南阿蘇の風景をつくるごはん  
Instagram



村田さんの広大なネギ畑 農家の畑が風景をつくる



# 南阿蘇村 地域

## 農業を基礎から学んで将来は独立就農

地域おこし協力隊 長澤静香さん

東京でアパレル関係の仕事をした後に熊本へ帰ってきました。将来の夢は自分でイチゴの観光農園を開くことですが、現在は新規就農プロジェクトのメンバーとして日々農業を学んでいます。耕作が困難になった田畑を南阿蘇村農業みらい公社が借りて、鳥獣被害が少ない作物を植えて収益を上げることを実証にも取り組んでいます。南阿蘇の景色は朝日や夕日、星空も本当に美しく、疲れが吹き飛

びます！この美しい景観を維持するために自分が作ったものを多くの人に食べていただいて、結果として風景が守れば嬉しい。周りの人を喜ばせるという点では、前職も農業も変わらないということがわかりました。



## 子どもたちにも農業を知ってほしい

地域おこし協力隊 植田晴菜さん

動物と自然が好きで、大阪の動物病院で看護師をしていましたが、知人の紹介で南阿蘇村を知り、地域おこし協力隊として移住しました。南阿蘇村は初めて知った土地で九州のどこにあるのかも知りませんでした。でも、こちらに来て本当に自然が豊かなことに驚きました。通勤路でも毎日風景に癒やされています。現在は、ほかの地域おこし協力隊の人が作った野菜を病院や道の駅などいろいろな施設やお客様にお

届けしています。農業に関わる人を増やしたいと考え、植付けや収穫など農作業を子どもたちや多くの人に体験してもらうイベントも開催しています。南阿蘇村の暮らしは最高です。この景観を守っていきたいです。



## 料理をつくることで風景を守る

南阿蘇の風景をつくるごはん協賛店 店主 出野里志さん

作った人の顔が見える野菜に魅力を感じたことがきっかけで、地域の農家の方から野菜や米を買わせていただいています。南阿蘇村は山頂付近の遠くから眺めても、水田の素晴らしさ、景観の良さをひしひしと感じる場所です。私たち飲食店が野菜やお米を使うことで、観光客など南阿蘇村へ訪れた人に食べていただく。このことで南阿蘇村の風景が守れればと考えています。「農業でもやるか」ではなく「農業がやりたい」という人に

ぜひ来てほしいと思っています。継続して食や風景を守るには、ずっと続けるという思いが大切だからです。南阿蘇村で飲食店を20年以上経営していますが、これからも「南阿蘇の風景をつくるごはん」の活動を応援していきます。



地元の農産物を食べることで、風景は守られていく



少量多品目栽培をする村田さん



採れたての里芋

## 南阿蘇村が取り組む 「風景をつくるごはん」

地域の農産物を多くの人を食べることで、農業と景観の維持、継承していく活動です。東京工業大学の真田准教授が提唱したプロジェクト。南阿蘇村もその考え方に共感し、取り組んでいるのが、「南阿蘇の風景をつくるごはん」です。



地域おこし協力隊のメンバーと山戸さん



2022 くまもと農業フェアのブースに出店



多くの子どもたちが参加した農業体験